

新製品・新技術特集の発刊に際して

執行役員
技術戦略推進室長

伊藤 栄作
Eisaku Ito



新製品・新技術特集の発刊に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

三菱重工グループは、国内外約300社で構成されるグローバル企業グループとして、日本のみならず、世界へ活動範囲を広げています。当社グループは、ものづくりとエンジニアリングのグローバルリーダーとして、発電システムなどのインフラをはじめ、交通システム、船舶、航空機から、宇宙機器に至るまで、幅広い分野に高度な技術力で統合したソリューションを提供してきました。そして、長年の実績に基づく豊富なノウハウ、人材を駆使して、世界の人々や地球にとってより良い未来となるよう、進み続けています。

一昨年5月には、持続的な成長軌道の第一歩として「2018事業計画」を発表、社会の変化に適応した成長戦略を策定するとともに、長期ビジョンに基づく成長戦略として、“MHI FUTURE STREAM”を発表しました。この長期ビジョンを踏まえ、当社グループは、モノづくりをベースに、社会的価値の変化や技術革新を取り入れ、事業領域を拡大するとともに、脱炭素化・低炭素化と電化・知能化による機械システムの進化に取り組んでいきます。

当社グループは、常に社会に求められる存在となるべく、急速に変化する社会のニーズをいち早くとらえ、現在まで培ってきた当社の豊富な技術力をもとに、次世代を担う新技術・新製品の開発に取り組んでいます。

そこで、本号では最近の成果の一端として、16件の新製品・新技術を紹介します。脱炭素化・低炭素化に向けた取組みとして、社会・経済・環境の3側面から質の高いエネルギーインフラの方向性を定量的に示す指標“QoEn™”（クウォン）、再生可能エネルギー時代の高効率電力レジリエンス蓄熱システム、またガスタービンの燃焼試験・解析技術の取組みについてご紹介いたします。

電化・知能化では、モータ駆動設備の診断システム、仮想計測を用いたプラント水質監視、回転体への電力伝送技術、遠隔監視向けセキュリティ技術についてご紹介いたします。

また、発電プラントの水処理技術、低コスト複合材成形法、高精度・高能率レーザー加工を実現するビーム伝送技術、RAM分析を活用したリスク評価、水中音予測技術、トランスミッションの負荷能力向上と低騒音化、空力騒音のシミュレーション技術、熱交換器の気液二相流分配評価技術についても、ご紹介いたします。

これからも私どもの活動に対し、ご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。